

松本短期大学介護福祉学科学生の意向調査（第一報）

六波羅 美 代
Miyo ROKUHARA

南 原 友 枝
Tomoe MINAMIHARA

第1章 はじめに

わが国における急速な高齢社会の進行と共に要介護高齢者の将来推計は、厚生省の統計で見ると、寝たきり、痴呆性、虚弱高齢者の合計で、2000年には280万人、2010年には390万人、2025年には520万人になると見込まれている。（高齢社会白書 平成9年版）

これに対応して国では在宅介護を中心にした公的介護保険制度を2000年4月から発足させる。介護保険導入等により福祉は「保護」から「自立支援」の時代へ。そして人権福祉へと福祉の理念は大きく変わりつつあるのが現状である。

現代の社会においてはこのような高齢化に加えて、核家族化、単独世帯の増加、女性の社会進出等、家族をとりまく環境が変化し、家族での要介護高齢者を支える介護には限界があることが指摘されている。

このことは在宅介護に対する人的・経済的援助の推進充実と共に、施設介護の充実も切実に望まれるところであろう。

介護を要する高齢者が、在宅であるいは施設で快適に過ごすことができる為には、新たに重要な介護の担い手となりつつある介護福祉士の豊かな人間性、専門知識、技術等が求められている。

本研究は介護福祉士を目指して学んでいる学生の意向を調査し、分析して、今後の福祉士養成教育への提言資料となることを願う次第である。

第2 目的および調査と結果

第1節

1. 調査目的

現在、専門職としての介護福祉士が必要とされている。その求められる資質について探るにあたり、学生の意向調査を実施して実態の把握と、1年次生と2年次生の比較によりその変化等も探ろうとした。

調査内容は、入学の動機、資格を取ろうとした理由、第一志望か、短大に対する満足度とその理由、介護福祉士としての適性、介護福祉士に求められる資質、条件、授業及び実習を通

して考え方の変化とその理由、卒業後の進路希望である。

2. 調査方法

調査方法 質問紙による方法

調査対象 松本短期大学介護福祉学科 1年次生88名 2年次生79名 計166名

調査期日 1997年11月

回答方法 集合式 自記式

第2節 結果及び考察 1. 学生の状況

1年次生 男子学生 17人 女子学生70人 計88人

年令 18-20才84名 21才以上4名

第一志望 65.9% 第一志望でない34.1%

2年次生 男子学生 8人 女子学生71人 計79人

年令 18-20才77名 21才以上2名

第一志望 64.6% 第一志望でない35.4%

2. 結果

1) 入学の動機

入学動機について、24項目の動機をあげ、あてはまるもの4つ以内選んでもらった。割合が最も高かった項目から順にし、表1にまとめた。その結果、1年次生は「介護福祉士の資格をとりたい」が最も高く、「やりがいのある仕事だから」「将来、親や祖父母の介護に役立つから」「お年寄りのお世話をしたい」「他人に喜ばれる仕事をしたい」が上位5項目である。2年次生は「やりがいのある仕事だから」が最も高く、「資格をとりたいから」が次いでいる。2年次生は「介護の専門的知識、技術を勉強したい」が続いており「他人に喜ばれる仕事をしたい」「社会に役立つ仕事をしたい」が1年次生より低い。

「短大だったから」が1年次生ではかなり減っているのは、短大であることより、その内容が問われるようになってきているのではないかと推察される。

「他の大学に入れなかったから」「ただ何となく」を合わせると、16%程になり、これらの学生を、2年間の間に意欲を持って働く、介護福祉士として社会に出すのにはどのようにしたらよいのか課題であろう。

2) 介護福祉士の資格取得の理由

両学年共に「福祉の仕事につきたかった」が最も高く、50%以上である。次いで「これからの社会で最も必要とされる仕事」が高く、社会の需要をしっかりと受けとめていると見られる。「資格があると就職活動が有利」は2年次生が高いのは、彼らはこの時期に直接就職活動をして実感していると思われる。「介護で働く人を見て」「自分自身の力を試したい」「社会へ貢献したい」は1年次生の方が高いのは、まだ多くの夢を抱いており、2年次生は現実的に

入学動機

（表－１）

項 目	1年次生	2年次生
介護福祉の資格を取りたいから	55.7 %	51.7 %
やりがいのある仕事だから	<u>43.2</u>	<u>55.7</u>
将来、親や祖父母の介護に役立から	39.8	31.6
お年寄りのお世話をしたいから	34.1	30.4
他人に喜ばれる仕事をしたいから	<u>34.1</u>	<u>22.8</u>
社会に役立つ仕事をしたいから	<u>33.0</u>	<u>21.5</u>
介護の専門的な知識、技術を勉強した	29.5	32.9
卒業後福祉施設で働きたいから	26.1	25.3
人間相手の仕事だから	23.9	26.6
社会的に意義のある仕事だから	21.6	15.2
経済的に安定しているから	<u>12.5</u>	<u>6.3</u>
障害者のお世話をしたい	<u>10.2</u>	<u>5.1</u>
他の大学に入れなかったから	10.2	15.2
個性や能力の生かす仕事だから	9.1	10.1
両親がすすめてくれた	6.8	6.3
短大だったから	<u>6.8</u>	<u>19.0</u>
高校の先生がすすめてくれたから	5.7	8.9
新しい分野の仕事だから	5.7	6.3
実習を経験 したかったから	5.7	1.3
ただなんとなく	4.5	2.5
卒業後、公務員として働きたいから	3.4	1.3
資格を取って、転職したい	2.3	2.5
先輩がいたから	0	1.3
その他	3.4	11.4

介護福祉士の資格取得の理由

（表－２）

項 目	1年次生	2年次生
福祉の仕事につきたかった	67.0 %	53.2 %
これからの社会で最も必要とされる仕事	47.7	45.6
家族の介護に役立つから	33.0	27.8
介護技術・知識を身につけたかった	30.7	34.2
資格があると就職活動が有利	<u>27.3</u>	<u>40.5</u>
介護で働く人を見て	<u>27.3</u>	<u>19.0</u>
身内が介護されるのを見て	21.6	26.6
自分自身の力を試したかった	<u>13.6</u>	<u>5.1</u>
人生経験の一つとして	12.5	11.4
社会へ貢献したい	<u>11.4</u>	<u>5.1</u>
医療系の資格取得から介護への転換	10.2	10.1
社会的な評価が得られるから	5.7	1.3
職場での待遇がよくなるから	4.5	1.3
先生がすすめたから	2.3	2.5

考えるようになっているかのように見られる。

また医療系の資格取得から介護への転換が10%いることも考慮していかなければならない(表2)

3) 短大への満足度

1年次生と2年次生の比較を、(図1)に示す。「大変満足」「少し満足」を合わせると1年次生42%、2年次生約58%になり、望ましい変化を示しているのではないだろうか。

これを男子学生と女子学生に分けて見たのが(図2)である。両学年共に「大変満足」は男子学生に多いのは、やや意外であつた。

満足度の回答の理由を(表3)に示す。不満の理由には学食がない、設備が悪い、駅に遠い等、外的要因が比較的多い。満足の学生は、福祉に自分のやりがいを見つけた、あるいは介護の学習ができるから等、主体的なものであることがわかる。

1年次生に「今まで勉強してきて、本当に自分がこの分野に適しているかわからなくなってきた」「将来資格がとれても介護福祉士として働いていけるか不安」という、現在の迷いが感じられる学生もいる。これらの1年次生の悩みに適切なアドバイスができる場があることも必要になると思われる。

4) 介護福祉士としての適性は

1年次生と2年次生の比較を、(図3)に示す。「非常に適している」「やや適している」まででは、1年次生24%、2年次生約48%となり倍になっている。2年間の大学生活、実習を通して自分が適するようにと努力もしてきている結果とも考えられる。1年次生は「まだわからない」が12%いるのは当然であろう。

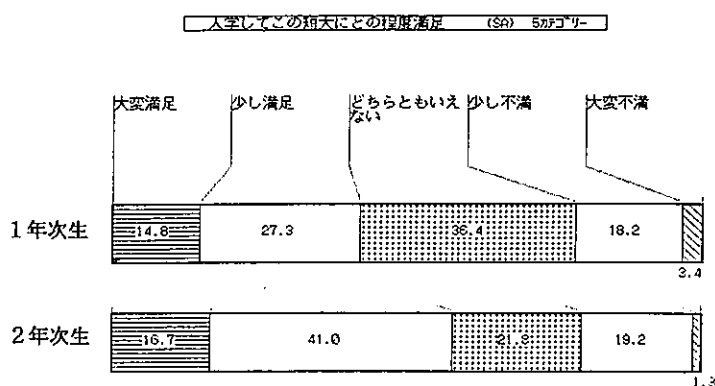
適性と短大への満足度の関係を見ると、「非常に適している」「やや適している」学生と満足度は大きく関連していることがわかる。介護福祉士の養成の学校においては、それに適している学生はうまく順応し短大への満足度も大きくなると考えられる。逆に適していない学生には、学校生活に不満も多くなる。(図4)

適性と介護福祉士の資格取得理由との関係を見ると「あまり適していない」「全く適していない」学生の資格取得理由に「資格をとると就職活動が有利であるから」続いて「家族の介護に役立つから」があげられている。逆に「非常に適している」「やや適している」学生の、資格取得理由には「福祉の仕事につきたかった」「自分の力を試したかった」があげられ、外的要因ではなく、自分自身の主体的要因によっていることがわかる。

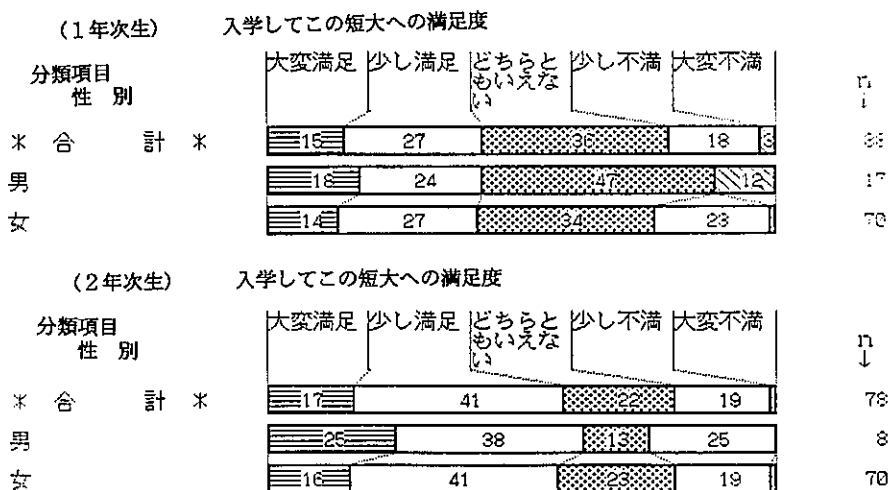
介護福祉士は資格は必要であるが、それは自分自身の主体的な考えによることが望ましいそのことが、その後の学生生活にも大きく響いて行くと思われる。(図5)

5) 授業、実習を体験して自らの考え方の変化

イメージの変化を(表4)(表5)(表6)に示す。全体として「変わった」とした学生に自由記入記載者が多い。また1年次生より2年次生の方が記載も多く、専門用語を含めた語彙数

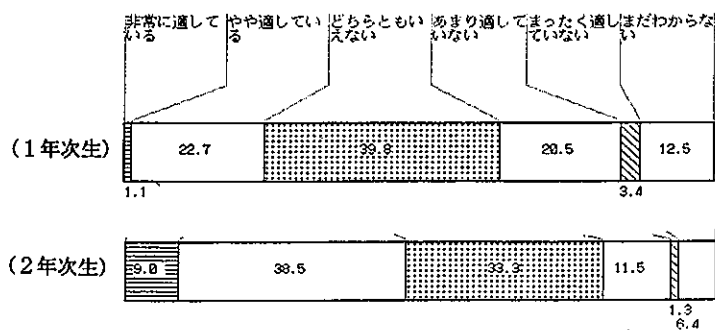


(図-1)



(図-2)

あなたは介護福祉士としての適性は



(図-3)

短大の満足度

理由自由記入

1 年次生

(表-3-1)

1 大変満足	2 少し満足	3 どちらともいえない	4 少し不満	5 大変不満
<ul style="list-style-type: none"> 専門的な技術や知識と同時に身につく根本的なものも同時に学べる点 先生が授業に対して熱心で色々な考えを持つ友達でできた 先生方もよくて、雰囲気もいい。思っていた以上 やりたいこと、希望したことができる。友達が県内、県外と沢山できたこと。やっていた張り合いになる とても広い分野で大変のことを学んでいるから 自分のやりたいことがみつかった 介護の様々なことを勉強できるし、友達もいい 自分のやりたいことについての授業ばかりだから 介護を通して人間の生き方について学べる 入学した頃は、先が全く見えていなかったが、最近見えはじめてきた 	<ul style="list-style-type: none"> 介護の専門的なことは身につくが授業数が多くて大変 サークルが活発でない。二年生との交わりが少ない。 最近やつと介護というものがわかってきた 専門的な事の他に一般教養も学べる 障害をもつ人についての勉強ができるから 専門学校とはやはり違う。短大の方がいい 介護の技術、専門知識、一般教養がある程度学べる 授業内容には満足しているが、自分に合っているかどうかはわからない やりたい分野の勉強なので授業もおもしろいし、毎日が充実していると思う。 介護の勉強は難しく大変 少し技術、知識を知ることができた。高齢者の気持ちを知ることができたから 考えていたよりも大変だけど、やりたい 演習を通して介護技術や知識を学ぶことができた 	<ul style="list-style-type: none"> 技術演習の少なさと、それについていけるのか不安、身につけているのかという不安 まだ実習にあまり行っていないのでよくわからないから 本当に介護でよかったのか不安になる 今まで勉強してきたことに自分がこの分野に適しているかわからなくなってきた 授業が大変なため 短大卒により、資格と学士称号を両方得て社会に出られる事は良かったと思う 地元以外の事がわかる点は良いが、実習などで期間が長いと県外者には不利 行事が少なく、楽しむことができない 	<ul style="list-style-type: none"> 行事が少ない 演習の時間が少ない 将来資格がとれても介護福祉士として働いていけるか不安、人間関係 いろいろな活動が少ない 学校の設備が整っていない(暖房、机、冷水器) 学食がない まじめすぎるから 授業が一日にいくつも詰まっていた大変 他の学校との交流が少ない 交通の便が悪い。学食がない 	<ul style="list-style-type: none"> 友達関係、演習が少ないこと 学食がないこと 図書館に本が少ない

短大の満足度

理由自由記入

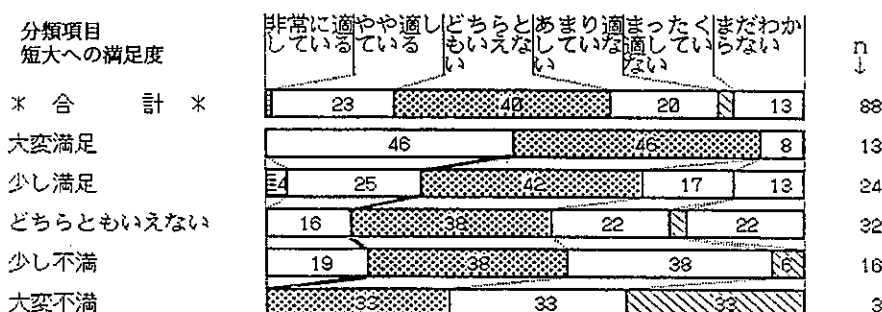
2 年次生

(表-3-2)

1 大変満足	2 少し満足	3 どちらともいえない	4 少し不満	5 大変不満
<ul style="list-style-type: none"> 現在では福祉の中に自分のやりがいのあることを見つけたため 自分にあってと思った 卒業と同時に資格がとれるので確実だから 学ぶことも面白いし、新しい友人もでき、人間関係の幅が広がったから やりたい勉強だったのととても満足しているが、学校の通学はとても不便 すばらしい仲間に出会えたから。お年寄りの笑顔にたくさん元気づけられたから 自分の希望であつた介護の学習ができ、多くの友人をつくることができたから 実習が多く現場で学ぶことが多いから 介護だけでなく、医療知識や人間的に成長させてくれたから 始めはぎこちなかったが、今ではお年寄りのコミュニケーションが楽しく感じられる 	<ul style="list-style-type: none"> 学校がせますぎる 介護の用具が揃っていない、それを使いながら実習でき自分では体験できなかった 学食が欲しかった 介護には満足しているが、学食がないこと、寒いことには不満もある 実習が多いので施設の仕事を学べる 運動等の学外の活動の設備が整っていない 駅から遠い、学外の交流が少ない 二年間では忙しすぎる 希望していた障害者より、老人についての勉強が多かったが、興味を持つことができた 老人や障害者に対するイメージが変わったと思うから 老人や障害者に対して知らなかったことが知れた ボランティアだけでなく、実習が役に立った。講義も専門的以外に一般的なことが学習できた 	<ul style="list-style-type: none"> 学食がない 学校が小さい 介護の技術や知識を身につける事ができる反面職場内の人間関係の楽しさを実感した 駅が遠い。学食がない 授業が多く大変 興味がわく授業とわかない授業がある 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータ関係の授業をやってほしい 学生生活がもっと楽しいかと思った 図書館の本が少ない 学食がない 校舎など設備が悪い 勉強面は充実しているが一年次の授業の組み方はきつい サークルが活発ではない 授業が面白いものと濃くないものがある 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな面で(1人)

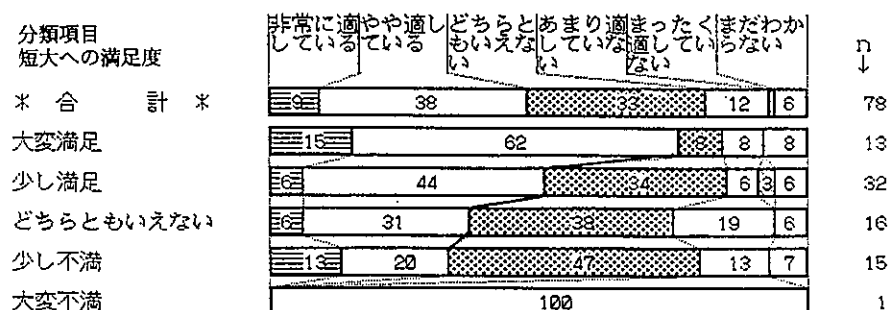
（1年次生）

あなたは介護福祉士としての適性は



（2年次生）

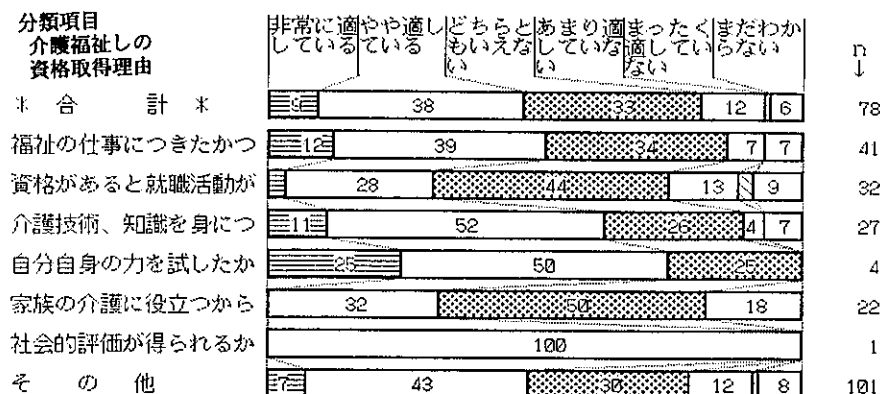
あなたは介護福祉士としての適性は



（図-4）

（1年次生）

あなたは介護福祉士としての適性は



(2年次生)

あなたは介護福祉士としての適性は

分類項目	非常に 適している	やや 適している	どちらとも いえない	あまり 適していない	まったく 適していない	まだわか らない	n
介護福祉士の 資格取得理由	23	40	20	13			88
福祉の仕事につきたかつ	22	42	20	12			59
資格があると就職活動が	17	29	25	25			24
介護技術、知識を身につ	15	44	26	15			27
自分自身の力を試したか	33	42	25				12
家族の介護に役立つから	14	52	21	14			29
社会的評価が得られるか	60	40					5
その他	25	40	20	12			121

(図-5)

今までの授業、実習を体験して自らの考え方の変化 1年次 単位% (表-4)

項 目	老人福祉 施設に対する イメージ	高齢者に 対する イメージ	障害者に 対する イメージ	介護福祉 士に対する イメージ	福祉に 対する イメージ	地域福祉 に対する イメージ
大いに変わった	23.9	18.2	25.3	22.7	13.8	20.9
少し変わった	39.8	35.2	33.3	39.8	36.8	25.6
どちらともいえない	21.6	20.5	17.2	18.2	26.4	32.6
あまり変わらない	12.5	25.0	23.0	15.9	18.4	18.6
全くかわらない	2.3	1.1	1.1	3.4	4.6	2.3

今までの授業、実習を体験して自らの考え方の変化 2年次 単位%

項 目	老人福祉 施設に対する イメージ	高齢者に 対する イメージ	障害者に 対する イメージ	介護福祉 士に対する イメージ	福祉に 対する イメージ	地域福祉 に対する イメージ
大いに変わった	31.1	19.7	35.1	28.4	24.0	26.7
少し変わった	43.2	31.6	37.7	39.2	29.3	22.7
どちらともいえない	12.2	17.1	14.3	13.5	28.0	38.7
あまり変わらない	13.5	26.3	10.4	16.2	17.3	10.7
全くかわらない	0	5.3	2.6	2.7	1.3	1.3

授業・実習を通して自らの考え方の変化

(表-5)

	認識 者	老人福祉施 設に対して	高齢者に 対して	障害者に 対して	介護福祉士 に対して	福祉に対 して	地域福祉に 対して
プラスイメージ への変化	人数	43	34	64	22	5	17
	%	44.3	53.1	83.1	28.2	10.0	30.9
マイナスイメ ージへの変化	人数	41	9	4	32	10	11
	%	42.3	14.1	5.2	41.0	20.0	20.0
その他の変化 (プラス、マイ ナスではない)	人数	13	22	9	24	35	27
	%	13.4	34.4	11.7	30.0	70.0	49.1

老人福祉施設に対するイメージの変化

(表-6-1)

1年生			2年生		
大いに変わった 19名中			大いに変わった 22名中		
プラスイメージへの変化	5名	思っていたより職員が明るい 施設の設備が良かった 暗いイメージがなくなった	プラスイメージへの変化	13名	施設の必要性を感じた 職員が努力していた 暗いイメージがなくなった
マイナスイメージへの変化	11名	個別的な関わり方の少なさ 仕事量が多く大変 きれいにみすぎている	マイナスイメージへの変化	7名	和気あいあいとしたイメージを もっていたがそうではなかった 現実思ったより厳しい
その他	3名		その他	2名	
少し変わった 29名中			少し変わった 27名中		
プラスイメージへの変化	10名	施設の必要性を感じた 施設の設備が良かった 暗いイメージが明るくなった	プラスイメージへの変化	15名	施設の必要性を感じた リク、リハビリ等熱心が良かった 雰囲気は明るい
マイナスイメージへの変化	17名	個別的な関わり方の少なさ 仕事量が多く大変 職員の態度が高齢者に冷たい	マイナスイメージへの変化	6名	寂れたきりの人が多い 利用者の尊重よりも仕事のやりやす さ重視
その他	2名		その他	6名	

高齢者に対するイメージの変化

(表-6-2)

1年生			2年生		
大いに変わった 13名中			大いに変わった 12名中		
プラスイメージへの変化	10名	命の大切さを知った 高齢者を大切にしている気持になった 暗いイメージがなくなった	プラスイメージへの変化	7名	短気・がんこな顔など見た目だけで 判断していたが接する事で良いイメ ージが変わった
マイナスイメージへの変化	1名	不安をもった	マイナスイメージへの変化	2名	偏見の度が高かったより重かった
その他	2名		その他	3名	
少し変わった 23名中			少し変わった 16名中		
プラスイメージへの変化	9名	がんこな顔などイメージが 理解しようとする事で理解で るようになった	プラスイメージへの変化	8名	高齢者の生き方を尊重しよう という気持ちが強くなった ますます好きになった
マイナスイメージへの変化	4名	不満を持っているように見える 話が合わない	マイナスイメージへの変化	2名	頑固でこわい
その他	11名		その他	6名	

障害者に対するイメージの変化

(表-6-3)

1 年生			2 年生		
大 い に 変 わ っ た 15名中			大 い に 変 わ っ た 24名中		
プラスイメージへの変化	14名	身近な存在に感じた かわいそうな人ではない 努力している	プラスイメージへの変化	22名	偏見がなくなった 少しの援助で社会参加ができる 自分と何も変わらない事
マイナスイメージへの変化	0名		マイナスイメージへの変化	0名	
その他	1名		その他	2名	
少 し 変 わ っ た 21名中			少 し 変 わ っ た 17名中		
プラスイメージへの変化	14名	我々と一緒にであるという事 頑張っているところ 様子がわかってきた	プラスイメージへの変化	14名	身近に感じるようになった 自分達と何もかわらないという事 障害を個性としてみるようになった
マイナスイメージへの変化	3名	すべての人が善人ではない	マイナスイメージへの変化	1名	悪い症状に驚いた
その他	4名		その他	2名	

介護福祉士に対するイメージの変化

(表-6-4)

1 年生			2 年生		
大 い に 変 わ っ た 17名中			大 い に 変 わ っ た 19名中		
プラスイメージへの変化	3名	教育を受けており付添い員と違う 無限の可能性を感じた	プラスイメージへの変化	4名	一番人間性を求められる職種である 勉強した事で自信が持てた
マイナスイメージへの変化	9名	大変で自分がやれる自信がない 環境がしっかりしていない職種	マイナスイメージへの変化	9名	もっと価値ある資格と思っていた 必要とされているか認められていない
その他	5名		その他	6名	
少 し 変 わ っ た 19名中			少 し 変 わ っ た 19名中		
プラスイメージへの変化	8名	大切な仕事である 経験している事と資格があるとい う事は違う	プラスイメージへの変化	7名	やりがいのある仕事 介護と看護の違いがはっきりした
マイナスイメージへの変化	8名	思っていたより大変 もっと地位があると思った	マイナスイメージへの変化	6名	想像以上にきつい仕事 専門職として認められてない
その他	7名		その他	6名	

福祉に対するイメージの変化

（表－6－5）

1 年生			2 年生		
大 い に 変 わ っ た 6 名中			大 い に 変 わ っ た 12 名中		
プラスイメージへの変化	2名	やりがいがありそう	プラスイメージへの変化	1名	冷たいイメージから暖かいイメージに変わった
マイナスイメージへの変化	2名	現状では幸せにはなれない	マイナスイメージへの変化	2名	外国に比べて遅れている
その他	2名		その他	9名	
少 し 変 わ っ た 22 名中			少 し 変 わ っ た 10 名中		
プラスイメージへの変化	1名	部屋がとても広かった	プラスイメージへの変化	1名	頑張っているというイメージ
マイナスイメージへの変化	4名	不足部分が多い 不条理な事も多いと知った	マイナスイメージへの変化	2名	言われるほど福祉は充実していない
その他	17名		その他	7名	

地域福祉に対するイメージの変化

（表－6－6）

1 年生			2 年生		
大 い に 変 わ っ た 12 名中			大 い に 変 わ っ た 16 名中		
プラスイメージへの変化	4名	生活していくのにとても大切なものと思うようになった	プラスイメージへの変化	6名	積極的に取り組んでいる事がわかった 福祉の中で地域がこんなに関わっていて重要なものと思っていなかった
マイナスイメージへの変化	4名	あまり行なわれていない 福祉が衰えている	マイナスイメージへの変化	1名	もっと充実して欲しい
その他	4名		その他	9名	
少 し 変 わ っ た 15 名中			少 し 変 わ っ た 12 名中		
プラスイメージへの変化	1名	目立たないがしっかりやっている	プラスイメージへの変化	6名	地域福祉の大切さ必要性がわかった いろいろな福祉活動がされている 地域が高齢者を支えている事を知った
マイナスイメージへの変化	6名	まだまだ不足 地域は福祉に無関心	マイナスイメージへの変化	0名	
その他	8名		その他	6名	

が豊富になっており、教育の一つの効果とも考えられた。

「高齢者」「障害者」についてはプラスイメージの変化が多かった。特に「障害者にたいして」は83.1%の学生がプラスイメージへの変化であり「偏見がなくなった」「自分と何も変わらない」「身近な存在になった」などの記述が多く見られ、接することや知識を得る事の大切さを感じている。

「福祉」「地域福祉」については、プラス、マイナスではなく概念的な捕らえ方が多く見られた。2年次生は記述者28名中12名がプラスイメージへ変化し、マイナスイメージへの変化は1名のみであった。

「介護福祉士」「老人福祉施設」に対してはマイナスイメージの変化が他の項目に比して多く見られた。記載例をあげると「老人福祉施設にたいして」は「職員の数が少ない、ハードで自分に勤まるか不安」「利用者の尊重よりも施設のやりやすいように動いているのでは」「今まできれいに思っていた」などが多い。「介護福祉士にたいして」は「介護福祉士の役割を果たしていない」「仕事がハード」「もっと専門職だと思っていたが、名称だけで社会的地位も低い感じ」などが多かった。1年次生・2年次生を比較して見ると、「介護福祉士にたいして」はほぼ同じ数値であり、「老人福祉施設にたいして」は、プラスイメージへの変化は1年次生31.3%、2年次生57.1%であり、マイナスイメージへの変化は1年次生58.3%、2年次生26.5%と開きがある。1年次生にとつては福祉＝きれいなものという漠然とした思いを持って入学してきたが、5日間の見学実習に出て、現実を目視し、ややショックを受けているのではないだろうか。

6) 介護福祉士に求められる資質・条件は

介護福祉士に求められる資質・条件について、15項目をあげ、あてはまるものを選んでもらった。その結果は(表7)に示す通り、「対象者を理解する態度」「人間尊重の価値観を持っていること」は、両学年65%以上である。しかし「健康、労働に耐え得る体力」「協調性」「新しいことを考える力」「共感的態度」「包容力」においては、2年次生が高い値を示している。彼らは今までの実習等を体験して、専門知識・技術は勿論、体力、協調性、新しいことを考える思考力、精神的に広い包容力を持つこと等が介護福祉士に必要であるとあげているのはすばらしいと感じる。

7) 卒業後の希望進路

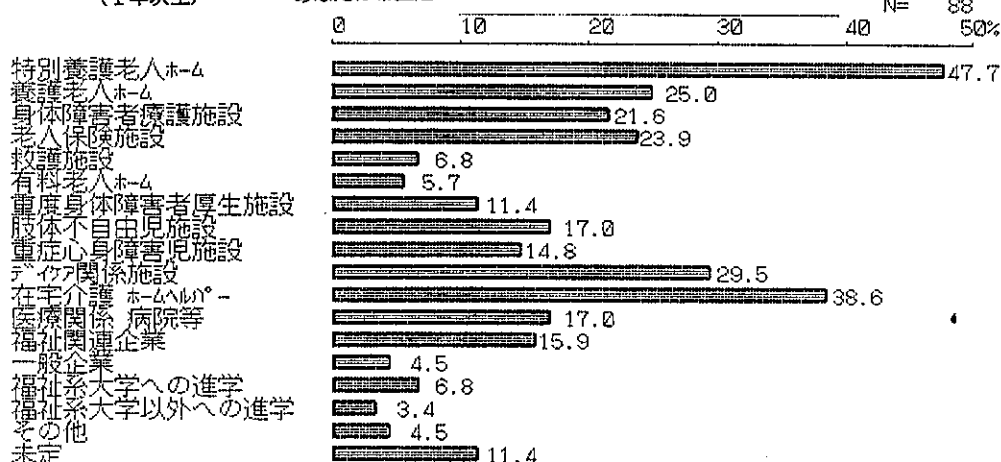
1年次生は「特別養護老人ホーム」が最も高く、ついで在宅ケアとなっている。2年次生は老人保健施設が圧倒的に多い。これは実習を体験したことと実際の職場のニーズの両面から考えて老人保健施設が多くなったと思われる。一般企業への就職希望は、約5%いる。1年次生の11%はまだ未定である。本学科の学生の95%は、卒業後、福祉関係の仕事を希望していることがわかる。(図6)

介護福祉士に求められる資質、条件は（表-7）

項目	1年%	2年%
対象者を理解する態度	73.9	88.6
やさしい気持ち	67.0	57.0
人間尊重の価値観をもっていること	64.8	70.9
専門知識、技術に優れていること	63.6	53.2
責任感	60.2	62.0
介護の仕事が好きであること	60.2	60.8
忍耐力、根気	58.0	50.6
健康、労働に耐えうる体力	52.3	64.6
礼儀正さ	47.7	44.3
協調性	37.5	50.6
新しいことを考える力	37.5	51.9
共感的態度	30.7	51.9
社会的経験が豊であること	29.5	32.9
研究心や向上心に富んでいること	26.1	51.9
包容力	25.0	27.8
その他	1.1	1.3

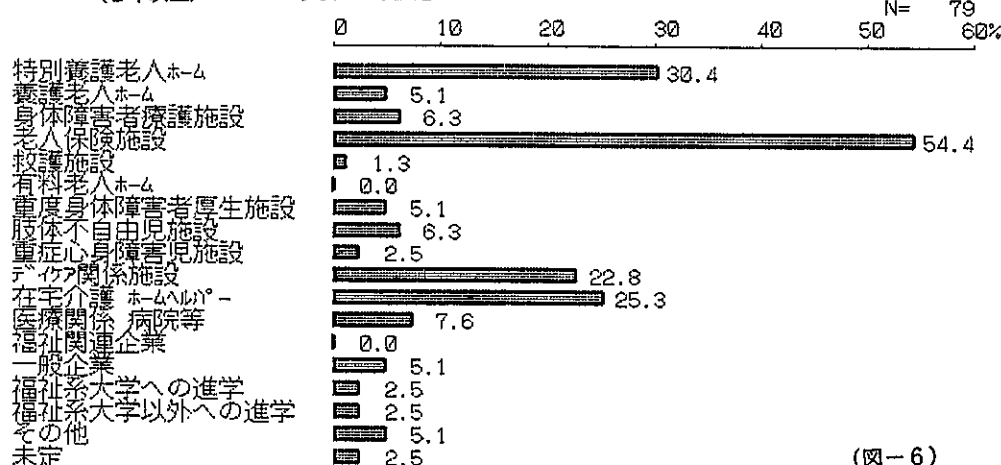
（1年次生）

あなたは希望進路は

N= 88
50%

（2年次生）

あなたは希望進路は

N= 79
60%

（図-6）

第3章 まとめ

今までは高齢者の問題、在宅介護の問題、施設利用者の問題、施設の問題等については議論されているが、介護福祉士については、その歴史も浅い故に、まだあまり議論されていない。まだ始まったばかりの介護福祉士の位置付けを明確にすることは大事な問題であろう。

学生は介護福祉士の資格をとりたい、やりがいのある仕事だからという入学動機で入学し、その資格取得の理由には福祉の仕事につきたい、これからの社会で最も必要とされている仕事であるとして、卒業後の進路にも福祉関係に直接進むことを希望している学生が9割であることは、介護福祉学科として良い結果と判断できる。なかには、他の大学に入れなかったからとか、ただ何となくという不本意入学の学生が16%いることも事実として受けとめ、配慮していかなければならない。

介護福祉士に適しているかどうかは、資格をとると就職活動が有利である理由で資格を取ろうとしている学生は、自分が介護福祉士としては、あまり適していないとの回答が多い。自分が福祉の仕事につきたかったために資格がほしい学生は、自分が介護福祉士に適していると回答している。これは介護福祉士の資質にまで波及する問題と思われる。介護福祉士はその個人の主体的考えでその道に入れば、その個人の適性は十分に発揮されるが、単に就職が有利だから資格を取りたいという外的要因によると、介護福祉士には適していないのではないかと考える人も多くいる。自分が介護福祉士に適していると回答した学生は、学校生活に対する満足度も高くなっている。

授業や実習で学ぶことにより、老人福祉施設、障害者に対して、介護福祉士に対して、高齢者に対してイメージが大きく変化している。このことはこれからの人権福祉の時代に向け、その担い手となる介護福祉士にとり大変大事な学習であることを示している。

1年次生と2年次生を比較すると、ほとんどの面に2年次生が成長していることを感じたが、特に介護福祉士に求められる資質については大きな差が見られた。介護福祉士に求められる資質については、対象者を理解する態度、人間尊重の価値観をもっていることは勿論、健康、協調性、新しいことを考える思考力、包容力等をあげているのは、介護福祉士として広い豊かな人間性が必要であることを示しているのではないだろうか、2年次生はしっかりそのことを認識しているように推測される。

介護福祉士志望の学生は、介護を要する高齢者を支えて、高齢者が人生の終わりの時を人間として幸せに過ごしていけるようにする重要な役割を担っている。彼らもその期待を自覚していると見られる。

介護福祉士の位置付け、労働条件、待遇面等については今後の課題として取り組んでいきたい。

参考文献

- 1) 総務庁編 「高齢社会白書」平成9年版
- 2) 社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
「介護福祉士養成施設における教育過程と
その教育内容に関する調査研究報告書」
平成 9年3月
- 3) 「日本赤十字秋田短期大学」紀要第1号 平成9年3月